城山小学校　第８８５回　平和祈念式　令和７年５月９日

今から 80 年前、日本はよその国と戦争をしていました。その戦争は、3年8か月続きました。そのころ、この城山小学校では 1400 人ぐらいの子供たちと 40 人ぐらいの先生方が、不自由な生活の中で勉強をしていたそうです。

1945年８月9日11時2分、長崎に原子爆弾が落とされました。そして、城山小学校から500mしか離れていない場所の上空、空の上で、爆発しました。城山小のまわりも、ほとんどの建物が壊されました。城山小学校では26人の先生方と学徒動員等できていたたくさんの方々が亡くなりました。当時の城山国民学校の児童だった子供たちも1400人あまりが亡くなりました。今も毎日、その時刻には運動場の平和の鐘が鳴ります。亡くなった人たちが安らかに眠れますように、そして、このような悲しいことが二度と起きないよう平和を祈って鳴っています。

みなさんは、今日の朝「行ってきます」と言ってお家を出てきましたか？お家に帰ったとき「ただいま」と言いますか？あの日「行ってきます」と言って出かけた子供たちは、大切な家族に「ただいま」と言えませんでした。あの日「行ってらっしゃい」と言って見送ったお父さんお母さんは、大切な自分の子供に「お帰りなさい」と言えませんでした。

もっと友達と遊びたかったでしょう。もっと勉強もしたかったでしょう。もっと家族とおいしいご飯を食べたかったでしょう。もっと「行ってきます」や「ただいま」、「今日ね、友達と遊んで楽しかったよ」と言いたかったでしょう。大きくなったら、こんなことをしたいといった夢もあったでしょう。しかし、そんな当たり前の生活も、子供たちの未来も、原爆は奪ってしまいました。長崎の町は、たった一発の爆弾で、建物も、全てを失ってしまいました。

「行ってきます」は、出かけるときの言葉です。これは「行く」と「来る」からできた言葉です。
「これから出かけるけれど、必ず無事に帰ってくるからね」という約束を伝えているのです。
「行ってらっしゃい」は、見送るときの言葉です。これも「行く」と「来る」からできた言葉です。
「お出かけですが、元気で帰ってきてください」という心を伝えているのです。

教室で勉強をすること、友達と遊ぶこと、家族や先生方とあいさつを交わすことなど、毎日当たり前にしていますよね。その当たり前が続くことが平和です。

今私たちにできることは、あのとき、城山小学校で亡くなった先生方や多くの子供たちのことを思って手を合わせること、平和を願うこと、自分の命・友達の命を大切にすることです。

城山小学校の合言葉は「Peace（ピース）飛び交う、日本一楽しい学校をつくろう」です。新しい学年が始まって1か月経ちましたが、ピース飛び交う日本一楽しい学校になっているでしょうか？みんなが気持ちよく、安心できる言葉づかいで過ごしているでしょうか。もうすぐ城山小フェスティバルです。6年生を中心に、盛り上げていこうとしている様子が見えます。とてもうれしいです。

みんなでピース飛び交う日本一楽しい学校をめざして、そしてこの平和が続くように、気づき、考え、行動していきましょう。

教頭先生のお話

初めて平和祈念式に参加する1年生

『子らのみ魂よ』を歌う６年生